

令和6年度第1回岡山市基本政策審議会会議録

令和5年12月23日（月）

1 開会

○司会 それでは、定刻が参りましたので、ただいまより令和6年度第1回岡山市基本政策審議会を開催いたします。私は、本日の司会を務めさせていただきます、政策企画課長の高木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、開会に当たりまして、大森市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○大森市長 皆さん、こんにちは。岡山市長の大森です。

今日は、基本政策審議会においでいただきまして、ありがとうございます。

早いもので、私も市長をやって12年目になりました。ここの委員の方々も、ほぼ10年間以上お付き合いしている方が非常に多くいらっしゃると思います。本当にありがとうございます。

岡山の情勢、もう皆さん方から、また評価、ご批判をいただきたいと思いますが、市議会ではこういう意見を結構言っていていただいてまして、岡山がポテンシャルのある町からポテンシャルを生かしつつある町に変わってきているんじゃないかというような、うれしい評価もいただいているんですが、一方では課題も山積であります。実に今日、朝、阿部会長の下で公共交通の話をさせていただいたところではありますが、例えばこれについても、まだまだ手探りの状態であるわけであります。

皆さん方から率直なご意見をいただいて、今後の総合計画づくりとか様々なものに生かしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 委員紹介

○司会 ありがとうございます。

では、今日は委員改選後、初めての開催となりますので、お手元の配付資料1、委員名

簿に基づいて、事務局から委員のご紹介をいたします。

まず、環太平洋大学副学長阿部宏史様。

○阿部委員 阿部でございます。よろしくお願いいたします。

○司会 株式会社山陽新聞社論説主幹岡山一郎様。

○岡山委員 岡山です。よろしくお願いいたします。

○司会 岡山医療専門職大学学長齋藤信也様。

○齋藤委員 齋藤です。よろしくお願いいたします。

○司会 岡山県建築士会副会長嶋田詠子様。

○嶋田委員 嶋田です。よろしくお願いいたします。

○司会 就実大学名誉教授杉山慎策様。

○杉山委員 杉山です。よろしくお願いいたします。

○司会 岡山商工会議所副会頭高谷昌宏様。

○高谷委員 高谷でございます。よろしくお願いいたします。

○司会 林原美術館館長谷一尚様。

○谷一委員 谷一です。よろしくお願いいたします。

○司会 岡山大学准教授辻本久美子様。

○辻本委員 辻本と申します。よろしくお願いいたします。

○司会 ノートルダム清心女子大学教授濱西栄司様。

○濱西委員 濱西です。よろしくお願いいたします。

○司会 岡山市連合婦人会理事西田郁子様。

○西田委員 西田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 株式会社中国銀行取締役常務執行役員山本総一様。

○山本委員 山本でございます。よろしくお願いいたします。

○司会 今回の改選で、嶋田委員、谷一委員、辻本委員、濱西委員が新たに委員に就任されておりますので、それぞれ一言ご挨拶をいただきたいと思います。

まず、嶋田委員からお願いいたします。

○嶋田委員 岡山県建築士会の副会長をさせていただいています嶋田と申します。

すみません。今日ちょっとこんな声が、体は元気なので、ご安心くださいませ。

ふだんは一般建築の設計の仕事をしております。所属する岡山県建築士会というのは、建築士という資格を持った個人が集まる、または建築を目指す方とか中には学生の会員さんなども最近は募集しておりまして、建築士会のことを広く知っていただく。いざというときには、県とか市とかと連携を取って災害現場にも駆けつけたりもしておりますので、そういうPRもさせていただきながら、将来を担う建築の学生さんたちを盛り上げて、仲よくなっていきたいなというようなことで、いろんなイベントもしております。

今日は建築の担当の方が今まで委員の中にいらっしゃらなかったということで、お声がけをいただきました。私どももこれを拝見するのは初めてなので、勉強もさせていただきながらお役に立てればなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 谷一委員、お願いいたします。

○谷一委員 谷一でございます。

林原美術館の館長をしております。文化芸術、歴史遺産、そういったところが本来の専門でございます。今年の3月まで山陽学園大学の副学長を兼務しておりましたが、3月で退任しまして、今授業だけの特任教授というようなことにもなっております。3月までは会議とか入試だとか、いろんな学内行政がありまして随分忙しかったんですが、4月以降はその部分がなくなりましたので、大分楽になりました。お世話になることになりました。よろしくどうぞお願いいたします。

○司会 続いて、辻本委員、お願いいたします。

○辻本委員 初めまして、岡山大学の辻本と申します。

正式な所属は環境生命自然科学学域というふうに書いてございますが、大学の学部教育でいいますと工学部の環境・社会基盤系、昔でいいますところの土木とか農業農村工学の分野になります。私の専門は水工学（すいこうがく）、水工学（みずこうがく）でして、降った雨がどういうタイミングで川に流れるのかとか、このあたり、いろんなところから蒸発したものがどこで雲になって雨を降らすのかといったことの現象解明とかシミュレーションといったことを専門としています。

どこにダムをどういう規模のものを造って治水を考えたらいいかとか水資源計画を考えたらいいかとか、また最近ですと気候変動で雨の降り方がどう変わるかというようなことを予測をしたり適応策を考えたりというようなことについて研究教育を行っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 続いて、濱西委員、お願いいたします。

○濱西委員 よろしく申し上げます。前任の山下美紀文学部長に次いでかなと思っております。私は大学のほうで地域連携・SDGs推進センター長、産学連携センター長、生涯学習センター長というものを務めておりまして、この場にはジェンダー、男女共同参画のところとSDGsのところと、あと生涯学習センター、生涯学習のところで何かコメント

させていただければなと思っております。専門は社会学といって特に社会組織論ですの
で、会社、行政、NPO、NGO、いろんなものの研究をしております。よろしくお願いいたします。

4 会長の互選

○司会 ありがとうございました。

なお、本日は日下委員、田中委員、福島委員の3名がご都合によりご欠席と聞いており
まして、1人、小野委員さんがまだご到着されておりませんが、基本政策審議会設置条例
第6条第2項に規定する委員の過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成
立していることをご報告いたします。

続きまして、会長、副会長の選任に入ります。

本審議会設置条例第5条第2項に基づき、委員の互選により会長、副会長を定めること
になっております。

会長、副会長の選任について、いかがいたしましょうか。ご意見があったらお願いいた
します。

○齋藤委員 はい。

○司会 齋藤委員、お願いします。

○齋藤委員 齋藤でございます。

岡山市第6次総合計画の策定や実証の経過等をよくご存じである阿部委員を会長に推薦
したいと思います。よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

ただいま会長は阿部委員にというご提案がありましたが、皆さん、いかがいたしまし
うか。

〔拍 手〕

○司会 ありがとうございます。ご賛同いただきましたので、会長は阿部委員にお願いしたいと思います。

続いて、副会長の選任について、ご意見はありますでしょうか。

そうしたら、阿部会長、いかがいたしましょうか。

○阿部会長 市政にもいろいろとご協力をいただいております杉山委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔拍 手〕

○司会 ありがとうございます。ただいま副会長は杉山委員にというご提案をいただきまして、皆さんにご賛同いただいたものと思いますので、副会長は杉山委員にお願いしたいと思います。

それでは、阿部会長、杉山副会長、正面の会長・副会長席にご移動をお願いします。

〔阿部会長、杉山副会長、会長席、副会長席へ移動〕

○司会 それでは、阿部会長から一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

○阿部会長 会長にご推薦を受けました阿部でございます。

ただいま環太平洋大学というところにおりますが、もともと岡山大学に長らくおりました、いろいろと市政にも関与させていただきました。引き続きしっかりと務めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございました。

続きまして、杉山副会長、一言ご挨拶をお願いいたします。

○杉山副会長 一応、就実大学の名誉教授ということで出席させていただいておりますけれども、就実大学と中国学園大学で、先ほど谷一先生がおっしゃられましたけども、副学長として大学の経営を担当させていただいております。専門にしておりますのは、経営学でございます。特にブランド論とか都市ブランドとか岡山のブランドなんかをどういう

ふうにすべきなのかというふうなことを中心に研究をずっと今までやっておりました。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

それでは、本審議会設置条例第6条第1項により、会長が議長となることになっておりますので、ここからの議事運営は阿部会長にお願いいたしたいと思います。

○阿部会長 はい。阿部でございます。委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第に沿いまして議事を進めてまいりたいと思います。

まず、会議の公開と傍聴の取扱いについて、事務局から説明をお願いいたします。

○司会 はい。事務局です。

本日は現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障がなければ、会議の公開と併せて傍聴の許可をいただければと思います。

○阿部会長 本日の審議につきまして、特に支障になる事由はないと思われますので、公開といたしまして傍聴を許可したいと思います。委員の皆様方、いかがでしょうか。

よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 ありがとうございます。それでは、本日の会議の傍聴希望者には傍聴を許可したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日1名いるということでございますので、入っていただきたいと思っております。

〔傍聴者入室〕

5 協議

○阿部会長 それでは、協議に入りたいと思います。

まず、1 番の次期総合計画策定スケジュールにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○北川政策局長 では、資料の説明に入らせていただきます。

岡山市政策局長の北川でございます。よろしくお願いいたします。

これから資料3に基づきまして、次期総合計画の策定スケジュールについて説明をいたします。

現在、現行の第6次総合計画が来年度に最終年度を迎えるため、次期計画の策定に向けて、今年の10月よりワークショップや小・中学生アンケートなど、市民の意見を聴取しながら現行計画の振り返りを行っておるところです。

この審議会は今年度内に2回開催をする予定でございまして、第1回の本日は現行計画の振り返りを、来年の3月に行う予定の第2回目では人口の見通しなどの時代潮流、本市の特性、市民ニーズ等を踏まえた今後の方向性についてご審議をいただきます。令和7年度からは本格的に次期計画の策定に着手いたしまして、この審議会を年内に4回程度開催する予定としております。

まず、本計画の策定に係る諮問を行い、策定の趣旨や計画の構成、期間等を示す基本的な考え方から議論をスタートいたします。次に、分野別の主要課題の論点整理を2回程度行った上で、素案の段階で答申をしていただきます。その後、パブリックコメントを行い、令和8年2月議会に議案を提出するといった流れで、来年度中の次期計画の策定を目指して取り組んでいく予定です。

スケジュールの説明は以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、事務局から次期総合計画策定スケジュールについて説明がございましたが、何か質問等ございますでしょうか。

特によろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、次の議題に移らせていただきます。

議題の2番目、岡山市第6次総合計画の検証・評価について、事務局から説明をお願いいたします。

○北川政策局長 はい。続きまして、資料4に基づいて説明をいたします。

第6次総合計画がスタートした平成28年度、一部施策については平成26年度から市が重点的に取り組んできた施策や事業の成果についてまとめております。

資料4の目次をご覧ください。

1ページから4ページまでは、全体の総括資料となっておりまして、代表的な取組やデータを記載しております。続いて、5ページから6ページまでは、1ページから4ページの資料に位置づけられる10の都市づくりの基本方向別に資料を作成しております。最後に、振り返りにおける各政策分野の主な課題をまとめております。また、参考資料として、年表、コロナ対策・物価高騰対策、後期中期計画の目標に係る令和5年度の状況を添付しております。

それでは、内容を説明させていただきます。

1ページをご覧ください。

1ページは、将来都市像Ⅰ、経済・都市交流についての説明です。

経済・都市交流においては、中四国のゲートウェイとして交流・拠点機能を充実し、圏域全体の発展を図るため、町なかでのハレノワ整備や岡山城リニューアルなどのにぎわい拠点づくり、ハレまち通り1車線化など歩いて楽しいまちづくりを推進してまいりました。また、イノベーション創出と経営基盤強化支援による産業振興、文化財と観光の融合による観光誘客等に取り組むとともに、地域振興基金を活用した持続可能で活力ある地域づくり、岡山モデルのバス路線再編をはじめとする利便性の高い公共交通ネットワークを推進してまいりました。

これらの取組が実を結び、再開発をはじめとした新たな民間投資を呼び込むなど、町に好循環が生まれていると捉えており、代表的なデータにありますとおり、市内総生産の伸び率は指定都市4位の3.9%、民間投資の伸び率は指定都市1位の14.5%、また近年の最高路線価の伸び率、これは基本的には商業地の地価に当たりますが、県庁所在地の中でトップクラスとなっております。また、JR岡山駅の乗降客数は、過去30年間で最高だった平成30年に比べて94%まで回復をしております、岡山への人の流れはコロナ禍から着実

に回復をしております。

続いて、資料2ページをご覧ください。

将来都市像Ⅱにおきましては、子育て・教育環境の充実した都市の実現に向け、特に保育の待機児童問題と学力の問題を市政の最重要課題に位置づけ、その解消に向けて予算を重点配分しながら取り組んでまいりました。

保育の待機児童については、平成28年に定義を市民の生活実態に即して見直しをした結果、729名の待機児童が生まれましたが、その後、受皿整備と保育士確保策の推進により、令和6年には待機児童ゼロ人を達成しております。放課後児童クラブの待機児童につきましては、3年生まではおおむね解消できておりますが、4年生以上、高学年を中心に増加傾向にあり、令和9年度の解消を目指し、鋭意取り組んでおります。

学力向上につきましては、授業の改善等に取り組んだ結果、小・中学生ともに令和元年度に全国平均以上を達成し、現在も維持をしております。また、SDGsの理念を踏まえながら、多様な主体による地域活動の推進、女性や若者の活躍支援、多文化共生等を推進してきております。

続きまして、資料の3ページをご覧ください。

将来都市像Ⅲ、健康福祉・環境都市におきましては、市民の誰もが生涯にわたり健康で生き生きと暮らせるよう、健康寿命の延伸や地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会実現に取り組んでまいりました。また、ハード、ソフト両面から災害に強く安全・安心な都市づくりを推進するとともに、温室効果ガスの排出抑制や循環型社会の構築にも取り組んでおります。

代表的なデータといたしましては、平成22年から令和元年にかけての健康寿命の上昇幅は男性、女性ともに全国平均を上回っております。また、平成30年7月豪雨災害を教訓にした総合的な推進対策により、床上浸水が発生するリスクは令和6年6月時点で約7割解消いたしました。また、用水路については、優先的に対策を講ずるべき2,507か所で安全対策を実施をしております。

次に、資料の4ページ、都市経営をご覧ください。

岡山市では、財政状況を含めた全体バランスを見ながら、まちづくりや産業、子育て、教育など、重点課題への予算の重点配分を行いつつ、あらゆる分野のレベルアップに取り組んでまいりました。その結果、11年間で一般会計の当初予算は1.4倍となっております。あわせて、財政上、有利な起債の活用や経常経費の見直し等の不断の行財政改革によ

り財源を確保し、経常収支比率などの財政指標はいずれも健全で、持続可能な財政運営を行っております。また、組織力の向上に向けて職員の人材育成、働き方改革を進めるとともに、デジタル技術を活用した行政のスマート化にも取り組んでおります。

最後に、少し飛びますが、資料の29ページをご覧ください。

これまでにご説明した振り返りから見えてきた今後の課題、充実強化していくべき課題など、各分野の主な課題について記載をしております。次の計画に向けての一つの材料としてご覧いただければと思います。

私たちとしては、これからも岡山市の強みや特性、例えば中四国のクロスポイントに位置するという拠点性、古代から戦国時代、現代につながる厚みのある歴史分野の蓄積、商業・業務・医療福祉など都市機能が高次元に集積していること、災害が少なく温暖で恵まれていること、学生、若者が多いこと、そういった特性を最大限発揮しながら、あらゆる分野のレベルアップを図って、都市の総合力を高めていきたいというふうに考えております。

これから委員の皆様からご意見をいただくことになりますが、例えば岡山の強み、岡山らしさとは何かといったことも踏まえて、ご意見をいただけるとありがたいというふうに考えております。

私からの説明は以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、岡山市第6次総合計画の検証・評価につきまして、ご出席の委員の皆様方からは大きな視点からご意見をいただきたいというふうに思います。

進め方は、勝手でございますけども、お手元の配席表に従って私から時計回りをお願いしたいと思います。必要に応じて、市のほうからはご質問に対する回答、コメント等をいただく形で進めたいと思います。

それではまず、高谷委員さんからお願いいたします。

○高谷委員 失礼します。高谷でございます。

主に経済的な部分からのご質問をさせていただきたいというふうに思っております、4点ございます。これは、会長、全部まとめて質問というか、よろしいです。

○阿部会長　まとめて結構です。お願いいたします。

○高谷委員　ありがとうございます。

まず、これは質問というより、本当に以前から岡山商工会議所が大森市長にいろいろ提言をさせていただいた部分で、地域未来促進法の部分で、なかなか工業団地の拡張というのができなかったわけではありますが、本当に大森市長をはじめ、皆様のおかげで、それがかなり緩和をされたというふうに会員企業も非常に喜んでおりました。まだ第一歩というところではありますが、本当に感謝申し上げたいというふうに思っておりますし、またその中でも岡山モデルということで特に本当に国の政策よりさらに一歩進んだ形での岡山モデルが確立されたということは、本当に全国でも、ある意味、最先端の状況ではないかなというふうに感謝申し上げます。

その中で、今、工業団地も実は拡張という中では、まだまだ土地の所有者との折衝というのも、なかなか難しいわけであって、この産業ゾーンではないですが、工業それから物流という部分で、さらに全国の中で優位な岡山の中で、この辺りも新産業ゾーンではないんですが、これから5年、10年後、20年後を見据えて、各企業が拡張するということもあるんですが、物流の拠点のエリアだとか工業団地の設営なんかも少し今後未来的に考えていただくことも、これから必要ではないかなというふうに思っております。

それから、次はスタートアップの件であります。今、岡山市さんのほうも桃太郎の何でしたっけ。ごめんなさい。「ももスタ」ですね。すみません。「ももスタ」でいろいろ今日数字が出ておりますが、これ、ちょっと口幅ったい言い方かもしれませんが、スタートアップということで起業はしているんですが、実際のところ、その企業がその後うまくいっているのかどうかということがちょっと気になっています。商工会議所でも伴走型という言葉で最近使っているんですが、会社の中の担当といろいろ話をするんですが、なかなかスタートアップ企業の皆さんとの連携というのが、まだまだ取れてないんじゃないかなと。もう少しそこは連携しながら伴走型のスタートアップ、また逆にこのスタートアップが上場企業を目指すぐらいの何かそういうところも、しっかりとフォローアップできたらというふうに思っております。

それからもう一つ、今度は観光面であります。今日いろんな政策の中でハレノワ等々、今かなり広域からお客様が岡山に来られているというデータは出ておりますが、もう一つ、今日、ちょうど昨日か今日、新聞にも、山陽新聞さんにも載っておったんです

が、岡山城の西の丸の周辺の整備というのが、これから岡山にとってもやはり大きな起爆剤になるんじゃないかなと。文化ゾーンを中心になるということで、このあたりの方向性、もし今日お話しただけのんであれば少しお話しただければなというふうに思っておりますが、このにぎわい創出の中でもこのエリアというのは非常に重要なことであるというふうに認識をしております。

最後に、岡山の場合は農業王国でもあるということで、いろいろな政策を今取られておりますが、少し現状が分かりにくいというか、もうかる農業とよく言われるんですが、もうかる農業って一体何だろうと。実は農業であまりもうかっているかどうかというのは非常に私自身もちょっと疑問視するところがあるんですが、簡単にスマート農業とか言葉は走ってるんですが、そのあたりへの政策とか方向性をもしお教えいただけるのであれば、今後、私たちも商工会議所は農業は関係ないことはなくて、このあたりにも大きな、また六次化を含めて対応ができればというふうに思っております。

ちょっと質問がバラバラしたかもしれませんが、方向的には本当にいろんな各部分で岡山市の皆さんには数値から現れているように、もう中四国の岡山が経済圏の拠点であるという一つの大きな、またこの方向性が、流れができているということは、私、経済界も肌で感じております。今後ともぜひよろしくお願いします。

以上です。

○阿部会長　ありがとうございます。ある程度まとめてご意見を伺いまして、それで市のほうから質疑をお願いしたいと思います。

谷一さん、お願いできますか。

○谷一委員　はい、谷一です。

岡山城の整備は大変すばらしく進みまして、その効果はもう絶大なものがあると。1年間の入場者数が過去最高という、これも思わぬぐらいの数字を達成しておりまして、町内会の皆さんがこぞって列をつくって毎日のように来られているという、そういう状況がある。市民にとって非常にいい意味でのリニューアルだったんじゃないかと思います。

本丸のほうは、かなり整備がこれで一段落というか、できたわけですが、今、高谷委員がおっしゃったように西の丸ですね。西の丸をこれからどうやっていくかと。ハレノワができて、ハレノワは岡山以外の方が随分、演劇なども岡山がかなり西日本の核になりつつ

あるぐらいのいろんな演劇をあちこちから集めて上演されておられまして、岡山以外の方がかなり、私は実数がどのぐらいか知りませんが、市のほうでご存じだったら、そういうデータもお示しいただければと思いますが、県外からかなりハレノワに演劇を見るために来られている、オペラを見るために来られているという方がいらっしゃるんじゃないかと思っています。

シンフォニーホールはここで2年ほど改修のためにお休みしまして、ハレノワは必ずしも音楽ホールとして造られているわけではないので、ハレノワでシンフォニーの代わり、クラシックコンサートとかの代わりが完璧にできるというわけではないんですが、その分、演劇、オペラ、こういったところではかなりの強みを持っているようでございまして、そういうデータも分かりましたら、また教えていただきたいと思っています。

市民会館はここで、ツインビルでR S Kのビルは残っていますが、市民会館のほうはここで改修をされるというか、壊されることになっているわけですが、跡地は歴史公園のようにするのか、史跡の指定ではないけれども、下にいろんな遺構があるので、大深度というか、土を掘って建物を建てるというようなことは、なかなか難しいのではないかと推察するんですけれども。

例えば、金比羅とか熊本なんかに日本各地に江戸時代から明治にかけての木造の芝居小屋が随分残っておりまして、そこを活用して、重要文化財になっているものが多いんですが、例えば地下に市民の団体が入って回し舞台を人力でやるとか、そういうところまでやってるので、例えばそういうことも市民会館の跡地に江戸時代風の芝居小屋を、金比羅と同じようなものでもいいかどうか分かりませんが、そういったものを造って活用していくとか、こうするとハレノワに来ている演劇、ハレノワで新しい舞台ではできるのですが、江戸時代の芝居小屋そのままを岡山でもやることができれば、そこで文楽なり、それから、文楽はまた舞台がちょっと違うんですが、歌舞伎なり、團十郎に時々来ていただいてやるとか、そういうのもまたまちおこしにつながっていくのではないかと、可能かどうか知りませんが、そういったところもあります。

西の丸は内山下小学校もありまして、これもコンクリートとしては非常に、コンクリートの小学校としては日本一古いんですかというような建物もありまして、これはなかなか壊すことは難しいと思うんですが、その向こう側に西手櫓という重要文化財が、やぐらがあります。旧国宝です。焼けなかったので重要文化財になっているやぐらなんですけども、岡山城にももう一つ残っておりまして、明治時代に30幾つあったやぐらを明治になっ

て全部壊してしまうんですが、2つだけやぐらを残すんですね。それが国宝に指定されるんですけども、その2つだけ残した端っこのやぐらが戦災にも焼けないで今に残っている。これはやっぱり一つの大きな文化遺産だと。

本丸のやぐらは月見櫓と称されますが、これはもう完全に岡山市が管理もしているし、岡山市の所有になっているんですが、実はどうもあまり言わないほうがいいのかわかりませんが、口を大きくして言わないほうがいいのかもしれませんが、西手櫓のほうは、これはまだ池田家の所有なんですよ。内山下小学校、岡山市立内山下小学校の校内にあったからか、あったのにもかかわらずか、よくわかりませんが、登記をしていなかったのか何かわかりませんが、法律上は岡山市の完全なものではないということらしいので、池田家もそろそろ代替わりで、いろいろ動きがございすけれども、そのときに市民にとってちゃんと西手櫓が完璧な形で存在しているのかどうかと。

この辺も岡山市のほうがどういうふうに把握しておられるのか。あまりほじらないほうが、つつかないほうがいいのかもしれませんが、そここのところも含めて分かることがありましたら教えていただければ。ただ、管理はちゃんと岡山市の教育委員会文化財課でやっているようなので、それは問題ないんですが、本丸のやぐらは11月3、4、5ぐらいに市民のために公開するんですね、おじさんがあそこへ行って鍵開けて座ってくれて。でも、西手櫓は内山下小学校の何周年かのときは公開してたみたいなんですけれども、本丸のやぐらのように毎年文化の日前後に公開するとかいうようなことはできていない。それはどういうことなのか。ひょっとしたら所有者が違うからなのか。その辺のところも含めて、市のほうでどういうふうに把握しているかをお聞きしたいというのがあります。

本丸の天守は焼けてしましまして旧国宝が今はああいいう形でリニューアルされました。これは焼けた後の岡山城天守としては理想的な状態で今あると思うんですが、実はもう一つ旧国宝で焼けて、これは復元されていないものが、先ほど言いました内山下小学校の南側に旧石山門というのがございました。この石山門は旧国宝だったんです。石山門のほうは焼けてしまったんです。ですが、これは全く復元されていない。門ですから焼ける前はあそこに門番さんがいて管理したりしてたみたいなんですけども、駅のほうから行きますと向かって右側の石垣が廊下門だったので、本当は内山下小学校から連なる左側の石垣と右側の石垣が同じ高さであったんですが、焼けた後、現状を見ますと石垣が南側、向かって南側、駅から見て南側は半分には切られているんですね。

あそこが高い状態だと何か不都合があったのかで切られたみたいなんですけども、そこ

をどうするかも含めて、もし石山門が復元できるのであれば旧国宝の石山門を復元すればいいのではないかという考えもあるんですが、あそこを復元しますと車が通れなくなるんです。なので、これはかなり市民がむしろ反対されるんじゃないか。観光施設としては石山門を旧国宝を復元するというのには一つの意味があるのかもしれませんが、これを復元してしまうと、車が通れるように、復元じゃないですよ、そうすると新石山門になってしまうので。なんですが、その辺をどうなのかなという兼ね合いがございます。

あとは、岡山は数え方にもよるようですが、古墳の数からいうと日本有数、人によっては小さな古墳まで数えると日本一古墳の数が多いんじゃないかというような、先ほどもありましたですね、ポテンシャルがあるからポテンシャルを生かすことにという、それに準ずるといえるか、するとしたら、この次は岡山にある数多くの古墳をいかに保存しながら有効に使っていくか。そういうことも市のほうで何かお考えがあるようでしたら、お話しただけなら。ちょっと長くなって、すみません。

○阿部会長 ありがとうございます。いろいろとありがとうございます。

それでは続きまして、辻本委員さん、お願いいたします。

○辻本委員 ありがとうございます。では、私のほうからは基本方向8の地域の力を生かした災害に強く安全・安心のまちづくりに関して2点発言させていただきたいと思います。お配りいただいた資料4の中では3ページ目と23ページ目に関してコメントいたします。

まず1点目なんですが、お配りいただいた23ページ目の資料ですが、事前配付の資料をいただいたときにハード対策として内水氾濫と外水氾濫の対策を区別してまとめられたほうがいいのではないかとコメントをさせていただいたんですけれども、本日お配りいただいた資料では既にそのように整理をして修正してくださっております。どうもありがとうございました。

少し補足で説明をいたしますと、床上浸水、床下浸水、浸水とか洪水が発生する原因としては大きく2つございまして、ここにある内水氾濫というものと外水氾濫というものがあります。川の堤防が決壊したり堤防の上を川の水が流れることによって、川の水が住宅地に押し寄せてきて浸水が生じることを外水氾濫といいます。一方で、堤防は壊れないし堤防の上を水が流れるということはないんだけど、住宅地に降った雨が川に十分排水

されないために住宅地で浸水が起こるようなことを内水氾濫と呼びます。ポンプ場の整備などは住宅地に降った雨を速やかに河川に排水することが目的ですので、内水氾濫の対策となりますし、一方で河川改修などは外水氾濫の防止に貢献することが大きいので、そのあたりを区分して書いたほうがよいかなと思って、そのようにコメントさせていただいて、そのように修正いただいております。

岡山市は非常に地形が緩やかな低平地にありますので、もともと降った雨がすごくゆっくりとしか流れない。もっと川が急であれば、さっと海に流れてくれるんですけども、非常に緩やかな地形の下で、もともと水害のリスクというのは大きいところにあるかなと。ここの外水氾濫の防止に書いてくださっているような河川改修というのは、もちろん外水氾濫にも貢献しますし、川の水位がなるべく上がりにくい、あるいは上がっても水位が下がりやすいような状態にしておくと住宅地の水も速やかに川に排水されやすくなりますので、内水氾濫の防止にも貢献するということになろうかと思います。どちら側の対策に効いているのかということが非常に分かりやすい形になっていただけてよかったかなと思っております。

もう一つお伺いしたいなと思っておりますのは、23ページの左側①のところに「平成30年7月豪雨災害を教訓とした」というふうに書かれているんですけども、いろんなこういう内水氾濫、外水氾濫の対策の工事をしていくときに、どういう規模の豪雨までを対策として考えるのか。平成30年7月豪雨のような雨が降ったときに耐え得るということを考えているのか、もうちょっとまた違う雨のパターンや規模を考えているのか、そのあたりも整理といいますか、明示されていると、教えていただけるといいかなと思っているところでは。

といいますのは、これから気候変動で豪雨というのは非常に増えていきますし、より深刻になると考えられていますので、どこまでをハード対策で守って、どこから先はソフトで頑張らないといけないかというところをどういうふうに市として考えているかというところが、より分かりやすいようになっているといいかなと思いました。

私からは以上です。

○阿部会長　ありがとうございます。

続きまして、西田委員さん、お願いいたします。

○西田委員 失礼いたします。将来都市像のⅠにつきましてご意見させていただきます。

この10年間の町なかの発展は目覚ましく、岡山市が大きく成長していることを理解しております。これからの発展が市内全体に広がり、また各地域がそれぞれ活性化していく、まちづくりをこれから期待したいと思っております。

そしてまたもう一つ、将来都市像のⅢにつきまして、災害への備えは自助、共助が基本で、常日頃から一人一人ができることを行っていく必要があると思っております。私たち婦人会、栄養委員会としては、バッククッキングの指導などを地域に行っています。こうした地域での地道な活動を通じて防災の取組を広げ、全体の底上げを図っていく視点が必要ではないかと思っておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

続きまして、濱西委員さん、お願いいたします。

○濱西委員 よろしく願いいたします。

男女共同参画の観点、あとSDGsの観点から少し述べさせていただきます。

もとより分野横断的なところが男女共同参画はありますので、少し将来都市像Ⅰのほうについて考えますと、若い人、とりわけ、今は若年の女性がどんどん大都市に出ていくという時代になっておりまして、それで消滅可能性都市という、そういったいろんな概念も出てきていて、経済・医療産業を維持する上でも、いかに若い人だったり、あるいは特に女性を県内に市内にいかに入れていただくかというのがすごく大事で、だからどこの都道府県もそこを必死に今頑張っているところだと思っております。ですので、将来都市像Ⅰに関しましては、ぜひ若い人たちがいろいろ起業できたり、特に女性が起業、会社をつくったり、いろんなことができるようにというところの支援をさらに強化いただけるとありがたいかなと思っております。

女子学生にいろいろ聞きますに、あるいはいろんな就職したOGからも聞きますに、就職した先でいろんな少し対応が男女で違うとか昇進も違うとか、あるいは就職活動の段階で既にそれを感じるとか、いろんなことが実はあったりいたします。そういう学生は同じような会社では、それであればもう県外に行こうとかいうようなことを考えますので、ぜひ地域の企業にも、これは要するに産業をまたがる話なんですけれども、ぜひ企業、もち

ろん行政もすごく頑張っておられますけれども、地域企業にもぜひそういった残る慣習みたいなものをさらに変えていっていただけるといいかなと。そういう働きかけをしていたけるといいかなと思っております。

将来都市像Ⅱのほうにつきましては、本当に子育てづくり、環境づくりを非常に頑張っていたいただいて、私も市の男女共同参画専門委員長をしておりましたので、様々、保育所づくりなどを市が頑張っておられることをよく分かっております。ですから、どんどんニーズが増えるもんですので、なかなか追いつかないということはよく分かっておりますけれども、この調子で進めていただければなと思っておりますが、ここでもやはり女性の県外への流出などもいろいろあります。

学生イノベーション・チャレンジ、本学も毎年グループをつくらせていただいて、助けていただいている非常にありがたいんですけども、さらに学生がかなり最近起業に関心ある学生が非常に増えておりますので、さらに何かいろいろご支援いただければいいかなと思っております。

育休の取得割合も市役所内でも頑張っておられる中で、よく聞くと1日の育児休暇を取っているにすぎないということが非常に多い。これはどこもそうです。多くの企業でそうなんですけれども、女性は大体半年から1年は取るんですけども、男性は取ってはいるんですけど、1日とか、そういった、そういうところがありますので、せめて一月とか、そういった何かデータもまた出していただけるといいのかなというふうに思っております。

同じく将来都市像の6のESD・SDGsの推進のところ、ここも本当に岡山市も未来都市に選ばれるぐらいですので、医療を中心に非常によく進めていただいていると思っております。SDGs、私も少し専門にしております、今国連、大学等の連携のネットワークにも入って、いろいろSDGsの次のゴール、2030年の次は一体どうなるのかということをいろいろ議論しておりますけれども、もう間もなく来年ぐらいから議論は始まります。恐らく非常に厳しい目標が課されるということは、もう想像に難くありませんので、国もそれに向けていろいろと動き出されると思います。

SDGsについてここまで、こういった点が市として進められ、こういった点がまだまだこれからなのかなというところを今のうちに冷静に評価をしていただけるとありがたいかなと思っております。その際にSDGsは169のターゲットから成っておりまして、17ゴールは実はそれほど重要ではなくて、169のターゲットのラベリングが17ゴールでし

かありませんので、その169のターゲットというものは、いかにどこまで、これはもちろん国の目標なので、市の目標に応用するのは、なかなか難しいものもあるんですけど、中には可能なものもありますので、ぜひ市のSDGsの取組みの事後評価は、ターゲットというものでしていただけると、間違いなく次のゴールもターゲットのようなものが、細かいものが定められたものになるのは間違いのないですので、ぜひほかの市町村に先駆けて進めていただければと思っております。

あと、自主防災組織の組織率が上がっているというのは非常に素晴らしいことだと思っておりますし、私も市の専門委員会のほうで、そういう状況をいろいろ話したりしておりますし、あとは市が最近大学生だけの機能別消防団が可能になるような条例をつくられたというのは非常に素晴らしいことで、本学の学生も参加させていただいておりますが、ぜひ担い手がどうしても高齢の男性の方に多く偏る傾向がありますので、そのあたりが若い人も、特に女性の方も入っていただいて、そのためにはもちろん集まりやすい時間に変えたりとか、いろんな細かい点が必要になるんですけれども、そのあたりを進めていただけると避難所の運営であったり、いろんなものが大きく変わっていくと思いますので、ぜひ進めていただけるとありがたいと思っております。

最後に、都市経営関係のところで、市役所で女性管理職比率が政令市4位であることは本当に素晴らしいことで、市長も私も直接お聞きしましたけれども、そういうふうに育児休暇で休業を取っているような職員が不利にならないように、ちゃんとやってるんで、すごいそれは非常に素晴らしいことで、その効果なんだと本当に思っております。この点をさらに、理想は3割、そして4割というところで、恐らく時間がたてば、そういうほうに向かっていくんだと思っておりますが。

ここで、事前にはお伝えしてないんですが、今内閣府のほうが女子学生限定のインターンシップを行政がなさっていたりしております。既に今、市役所内に女性の職員さんがどんどん増えていると思うんですけれども、例えばそういう女性限定のインターンなどをさせていただくと、さらに女子学生が市役所のほうにぜひということもあるのかなと思っております。これは書いておりませんけれども。

あと最後に、ぜひ女性管理職比率が高まったことによってポジティブなこと、どういう、例えばこういう点が非常によかったんだということをぜひ客観的に評価いただいて、それを民間にもいろいろと伝えていただけると、民間企業も、ああ、なるほど、なるほどということで、実例があるんだということでモデルにしやすいかなと思いますので、その

点をどうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、山本委員さん、お願いいたします。

○山本委員 山本です。よろしくお願いします。

非常に内容もほぼ充実してて丁寧に作り込まれているなという感想を持ちます。私ども金融機関がいろんなことをやろうとする上で必ず連携というキーワードが、何をするにしても産学官金の連携というのが大事になってくると思っていますので、いろんな項目で多分連携をお願いしますよということになるんだろうというふうに思っています。その中で、特に2点お伝えしておきます。質問ではなくて要望になりますけども、1点目が再エネのところで交付があったかと思います。

市のほうでゼロカーボン研究会とかで、いろいろと好事例の紹介であったり、取組で意識改革というようなご活動をされているというのは重々承知をしておりますが、我々もなかなか企業様の間でもこの温度差が、特に中小企業の中にはまだまだこの意識が広がりやし切っていないなというところを感じています。ぜひそのところは地域ぐるみということで、全ての企業にTCFDのところの関心が高まるような施策を取っていただけたらなというふうに思います。

もう一点は、私どもも着手をしたばかりなんですけども、今TNFD、生物多様性というところもやっていきましょうねということが国際的な課題になっています。次の10年ということであれば、必ず生物多様性というところのキーワードは出てくる話だと思いますので、何かしらの形で載せていただけたらなというふうに思います。

もう一点は、先ほどから高谷さんからも出てたように、イノベーションとか起業家のいろんなコンテストとかイベントをやっても、その後、何かつながっていないとかフォローし切れているのかなみたいなところのお話があったかと思います。その辺も学生イノベーションの推進プロジェクトの中で、これは我々民間のところも働き場所であったり企業づくり、受皿のところの改善というのが当然必要なんですけども、そこは一緒にインターンシップとかを組み込むとか、そういった形での連携ができたらいいなかなというふうに思っています。

最後、都市経営関係のところですが、まず財政については、本当に私も30年ぐらい前までは運用のほうに携わっていたので、当時は岡山県とか岡山市というのは非常に投資家から見ると、あまり人気がなかったというのが実際のところですが、本当に最近のこの指標を見てみますと、よくなっているなということを感じますので、特に金利のある世界になってくると、この調達のコストというのが非常に大事になってくるので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

もう一個は、やっぱりDXのところですね。行政のところのサービスのデジタル化というところもさることながら、まず市役所さんの業務自身のDX、効率化というのも、かなり減ってきてるという数字では拝見できますが、もう大胆に減らしていく、さらに働き方を女性を含めて改革をして引っ張っていくような見本になるような高い目標を掲げてほしいなというふうに思います。

あと、全体的な、これは質問になるかもしれないんですが、データのところで、例えば未来都市像Ⅰのところだと市内の総生産のこれは比較のところが足元が令和2年とかというふうになっていたり、健康寿命のところが令和元年というところになって、これは公表されているところなのでということなんだと思いますが、お手元では直近のその立ち位置というか、そういうデータはお持ちで、比較的ほかのところとも情報交換ができていてというような認識でよろしいのかどうかということだけ、ご質問ということで上げさせていただきます。

以上です。

○阿部会長　ありがとうございます。

いろいろとご質問、ご意見を伺いましたけど、このあたりで一区切りを受けまして、市のほうから回答等ございましたらお願いしたいと思います。

○林副市長　1つ……。

○阿部会長　はい、それではお願いいたします。

○林副市長　辻本委員からお話がありました、内水・外水の対策工事の対象としている気象現象等は一体何を想定しているのかということでした。これも先ほど書いてる平成30年

豪雨を今は対象にして、同じ雨が降ったときに同様の被害が起きないようにということを目標に今進めております。

○大森市長 平成30年豪雨で床上浸水が2,200戸あったんです。もう床上浸水は出さないという原則であり、そういう考え方でやっております。

○北川政策局長 この後、当局からお答えします。少々お待ちください。

○阿部会長 はい、お願いいたします。

○小山産業観光局長 産業観光局です。

高谷委員からご質問を3点ほどいただいております。

まず、企業立地といいますか、既存産業団地の周辺での開発について、この11月からできるようになったということで、今、何か所か具体的なお話をいただいて実際に動いているところです。あと、岡山環状南道路であるとかインターチェンジができることによって、物流等そのあたりで地域未来投資促進法を使って立地の話が多々来ているところです。今そういった民間活力を活用しまして、企業誘致を担当とともに私も実際に訪問したりして話をまとめているところです。誘致に関しましては、今のところ、うまく回っているという認識です。

あと、スタートアップ支援ですが、今年から「ももスタ」に相談できる人材を常駐させ、機能の強化をしています。今回おっしゃられていたのはイグジット、起業相談とか、そういったところを目指している起業家に対して支援をというお話だったと思います。このあたりもメンターであるとか相談ができる人を置いていることで、いろんな相談を受けているということで、近々そのあたりのことが出てくると思っています。

岡山市では「GovTech Challenge OKAYAMA」というのがありまして、これは行政の課題をスタートアップ企業と共に解決するというような事業を行っております。スタートアップ企業に対しても様々な支援をしているところです。

最後に、もうかる農業に関しましては、端的に言えば、岡山の農産物のブランド価値を上げ、高く売り、生産の費用を下げる、コストを下げるため、スマート農業などを推進しております。今、千両ナスであるとかイチゴなどの施設園芸のところで、CO₂の濃度を

測定する装置であるとかLEDの照明の機械でありますとか、そういった補助・支援をしています。その結果を横展開することで、今モデル的な事業になっているところです。

以上でございます。

○北川政策局長 続いて、私のほうから何点かお答えをさせていただきます。

まず、谷一委員からのハレノワに県外からどのくらい来ているのかというご質問がございました。公演によってばらつきが大きいと思いますけれども、アンケート結果によって6割ぐらいは県外から来ているという、そういう結果も出ておりますので、かなり県外からの来客が多いというのはご指摘のとおりだと思います。

また、高谷委員、谷一委員から西の丸の整備についてのご期待の声をいただきまして、大変ありがたいなと思います。これは私が担当でもありますが、まさに今年、基本的な考え方を示しをさせていただいて、来年から具体的内容を整理をして設計に入っていくという、そういったスケジュールでございます。あちらの西の丸の場所という意味でも、歴史的な価値という意味でも非常に重要な場所であるというのは同じように考えておりますので、あの場所のポテンシャル、価値を最大限に生かすにはどうしたらいいのかという観点で、これから引き続き取り組ませていただきたいというふうに思います。

また、谷一委員から古墳の話もいただきました。古墳については、先日10月に大学生を中心とした「若者100人ワークショップ」というものをやったときにも、若い方に岡山といえは古墳だということがかなり浸透しているなということを私も感じております。古墳は、例えばビジュアルとか、そういうものも含めて、かわいらしさもありますし、かなり取っつきやすいところがあるのかなというふうに思います。その専門的なこともいろいろと調べながら、その古墳のよさを生かすということについて引き続き取り組みたいというふうに思います。

濱西委員から幾つかご指摘をいただいております。男性の育休につきまして、今新法では目標としても1週間以上取得率85%ということで掲げております。実際その男女共同参画、育児を体験、体験と言うのも変ですね。育児を同じように担うという観点からも育休を連続して長い期間取るということの重要性が高まっていると思いますので、こちら引き続きやってまいりたいというふうに思います。

SDGsの観点、169のターゲットということで、なかなか高めのご指摘をいただいておりますが、岡山市も第3期SDGs未来都市計画というものをつくりまして、岡山市が

政策を進めていく上で必要なSDG s の取組についても整理をしております。そうしたのも踏まえて、また次の総合計画の目標設定という観点においても、SDG s のことも踏まえながらやっていきたいというふうに思います。

女性の管理職等の関係でいいますと、ご指摘いただいたように、市のほうでは大分今取組が進んできております。内閣府で女子学生限定インターンシップというのをやっているということで、私も霞ヶ関勤務経験がありますので、霞ヶ関はまだまだもう本当に女性職員が少なくて、入ってくる職員で3割弱、もう幹部職員に至っては5%いるかいらないかということで、大分国はもう取組が正直遅れているという中で、岡山市はかなり進んでいるほうかと思います。そうした中で、今後さらに登用等を進めていく中でどんな取組が必要なのかということを人材確保の観点でも考えていきたいというふうに思います。

まずは、ここまででさせていただければと思います。

○阿部会長 ありがとうございます。

○北川政策局長 それから、1個だけ……。

○阿部会長 ああ、まだある。

○北川政策局長 失礼しました。

山本委員がどのような数値が手元にあるのかということで、ご指摘のように令和2年度の数字ですとか令和元年度の数字を使っているというのは古いというふうにお感じになるかと思います。今鋭意計算しているものが多くなっておりますので、また今後ご議論いただく中で数字が更新できるものはしていきたいというふうに思います。すみません。

以上でございます。

○阿部会長 それでは、少し駆け足になりますけども、続きまして嶋田委員さんですね、ごめんなさい。

○嶋田委員 嶋田です。

いろいろとありがとうございます。私のほうからは、将来都市像Ⅰの関係です。岡山城

西の丸周辺の広場をこれから整備していくということですが、アリーナの計画もあり、北長瀬も大事なポイントで、公共交通の支線の発着口になるようなこともお聞きしています。北長瀬に立派な公園がオープンしまして、土日とかは本当にご家族連れ、子供さん連れ、ワンちゃん連れの方がいっぱい遊んで、にぎやかに過ごしていらっしゃるのは拝見します。

イベントがあるときは本当にお客さんがたくさんいて、どこから皆さん来てくださっているのかよく分からないんですけども、やはり岡山市民のための公園ですので、近所とかだけではなくて、広いところから来てくださっているといいなと思っているのがあります。

電車でしたら北長瀬駅からBRANCHを通っていくんですけども、BRANCHもできたときは、岡山にしてはすごく画期的な感じで、東京の知人が、東京にこんな施設があったら、もう人でごった返すよと言われたんですけども、ここ最近、本当に空き店舗も増えてきて、ちょっと寂しさが漂っていて。アリーナができるともっといろんな方が来てくださると思うので、その顔としての受入れ口のところだと思うので、民間が運営されているので、なかなか難しいところはあるかもしれませんが、市として何か一緒にタイアップして盛り上げていくようなことを考えて、北長瀬の駅前を盛り上げつつアリーナにつないでいていただきたいなという要望があります。

それから、ある著名なアーティストさんがコンサートに来られたときに、ちょうどハレノワができてすぐの頃だったんですけども、ハレノワではないところでのコンサートでした。ハレノワのことをステージ上でしゃべられて、それは音楽のコンサートでしたが、自分はハレノワではコンサートはしないとおっしゃったんですね。自分はこれからも倉敷市民会館に行き続けると。ハレノワは目的がさっきいろいろご説明してくださったように演劇がメインなので、要はあれだけ立派な、専門性の高いホールを造ると全てにいい顔をすることは到底できないわけで、やっぱりこれが目的でこういう施設を造りましたよと、そういう意味で、そこが盛り上がっていただくのが一番だと思うので、私はショックを受けただけなんですけれどもね。

ただ、アリーナの計画ですが、またお金がかかる施設です、アリーナの人数を増やす計画があると聞いていますけれども、大きければいいだろうというわけでもないですが、もうちょっとこうだったら、こんなイベントもできるのという反省点がないようなアリーナをぜひ造っていただきたいし、北長瀬の駅からアリーナまでを活性化していただきたい

い。さきほどハレノワは4割が県外のほうから来られているというのは、それはすごいことだと思います。

アリーナもできた暁には、もっともっとたくさんの県外の方が来られると思うんです、交通の便もいいし。初めて来たよとか、ちょっと時間があったら、どっか回ってみようとかいう、そういう岡山をもっと知ってもらおうという、きっかけのためにも、玄関口としてふさわしい北長瀬を盛り上げていっていただきたいなと思います。

それから、民間投資の伸び率が政令市1位というのは、すばらしいと思うんですけども、それは岡山市さんのいろんな働きかけがあって、再開発の門戸も広げていただいた結果、できていることだと思います。市街地再開発事業というのも計画街区がたくさんあるんですけども、昨今、建築費が高騰して、ちょっと足踏みをしている状態というところもあります。再開発事業自体、地権者さんの合意という時間がかかる息の長い計画であるがゆえに、急速な物価の高騰などにはなかなかついていけない事業というのは、持って生まれた性格なので仕方ないんですけども。

だから、対応はなかなか困難だとは思いますが、何とか停滞しているところも進んでほしいなと思います。やっぱりにぎやかで、ある程度まちづくりも整然とちゃんとした町をつくっていかないと歩いてもくれないし来てもくれないと思うので、大事なポイントには大事な物がちゃんと整備されているのが理想です。ただ、新しいものをばんばんつくればいいのかというわけでもないので、歴史的な遺産も大事にするということで、掘り起こして、知っていただいて、ちゃんと見ていただいて活用していただくという取組がもっと広がっていけばいいなと思っています。

岡山県建築士会でもヘリテージマネジャーという組織がありまして、もう7年になりますが、歴史的価値のあるものを見つけて補修して生かしていこうという取組をする専門家を養成しているところでもありますので、ぜひそういうのも活用していただいて、お手伝いをさせていただければなと思います。

それから最後に、都市経営関係でホームページのアクセス数が伸びているという数字がありまして、私もわからないことや興味があると岡山市のホームページの検索をいつもしていて、正直、本当に見やすくなってきたと思います。1つ、ふるさと納税についてですが、私は別にふるさと納税の仕組み全てがいいとは思ってないんですが長いものには巻かれろで、やはり税収としては欲しいので、岡山市がふるさと納税で、すごい寄附を集めておられるのか、流出が多いのか、その辺がちょっと市民としては気になるのと、ふるさと

納税をしようと思う人は、その市のホームページも訪れて、いろんなことを調べられるのではないかなと思うので、充実していただいて、岡山のよさをアピールしていただきたいし、ふるさと納税の返礼品にまつわるような紹介もいろいろしていただいたら、すみません。私が見れてないだけかもしれないですけども、そのあたりもお願いしたいなと思います。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

よろしいですね。

それでは、齋藤委員さん、お願いいたします。

○齋藤委員 私、一岡山市民とすれば、古墳の話とかアリーナの話とか西の丸の話、非常に興味があるんですけども、担当が保健福祉ということですので、21ページと22ページに関して少しだけ意見を申し上げます。

まず、健康づくりについてですが、岡山はさきほどもありましたけど、平野が広くて、少し田舎の要素を残しているんで車に乗る人が多いということで、健康寿命があまり大したことがなかったのを地道な努力で伸ばしてくださっているということは、すばらしいことだと思います。それから、介護予防のほうも、こういうふうな取組をしてくださって着実に進めてくださっているということでよいことだと思います。

そこでこれは、全国的な課題ではありますが、岡山市も中心都市部と中山間部もいっぱい持っているということに特色があると思います。高齢化の医療・福祉・保健に関する影響も大きいとは思いますが、岡山市は、幸い数少ない在宅介護に焦点を当てた特区の指定を受けておられます。私自身が医療畑の方で、あまり介護の方に詳しくないことから、この効果がどういう形で表れたのかというのをもしよければ少し後でお伺いしたいと思います。

それから、認知症サポーターのほうも4.3倍ということで、すばらしいんですけど、これはほかの分野もそうかもしれませんが、我々は医療の質の評価というときには、プロセス評価とアウトカム評価があります。この結果は基本的にプロセス評価で、もちろんプロセス評価は数値化がしやすく比較しやすいのですが、最終的なアウトカムではありません。アウトカム評価は口で言うのはたやすいんですけど、難しいのが分かっている上で、

あえて言うんですけど、これだけサポーターが増えたことが、アウトカムに結びついているのか。アウトカムというのは恐らく認知症の状態になっても安心して暮らせる岡山市ということでしょうから、このプロセス評価がアウトカムにつながるということを盛り込んでいただけたらと思います。

事前にはあまり言ってなかったのですが、先進国首脳会議の保健大臣会合が岡山市で行われたというのは、レガシーだと思うんですね。もともと岡山市は、岡山大学病院をはじめとして、医療の提供体制については、かなりアドバンテージがあったと思うんです。そういう中で岡山市民病院がああいう形で再整備されて、岡山市民に対して医療を、良質の医療を提供されるという形を取られたのは見識だったと思います。

それに加えて、今回のコロナで岡山市民病院が非常に大きな役割をしてくださしました。これは岡山県からも高い評価を受けているわけですね。もう公立病院としての役割を強く認識されて、そういう活動をされました。現在は、地方独立法人になっていると思いますが、岡山市と市民病院の距離の取り方が私は十分理解できてないのかもしれないかもしれません。市民に非常に身近な市民病院を持っているというか、コントロールの下に置いていらっしゃると思うので、その市民病院を活用して市民へのダイレクトな医療提供に加えて、公立病院のリーダーとしての役割も果たして頂ければと考えています。

岡山県は、いわゆる県立病院中四国で唯一ない県なんですね。

ですから、市民病院が県立中病院的な役割も果たして頂ければと期待しています。何を言っているかと言うと、県内への医師の派遣とか教育とか養成とかということも、市の役割の範囲を超えるかもしれませんが、岡山県内の公立病院の一番の兄貴分ということで、そういう面にも岡山市が力を注いでいただけたら、非常にありがたいと思っております。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、小野委員さん、お願いいたします。

○小野委員 岡山市の連合町内会の副会長をしております小野大作でございます。今日はよろしくお願いします。

市長にもお願いかたがた、いろんなことをまた教えていただきたいと思っております

が、今日は4点ほどあるんですが、まず子育てと教育ですね。これは私は実は老齢年金をもらいながら子育て支援金をもらっているという非常に不思議な立場にいます。最近、子育て支援金というのが復活したんですね。何かこの年になってもらえて非常にうれしいわけなんですけど、それをもらいながら老齢年金ももらってという立場におるんですけど、確かに子供の医療が市長も前に言われておったように、ちょっと消費税をやりくりしたら子供の小学生の医療が無料になるよと言って、あれは何か非常に助かります。

考えてみたら私なんか医者へ行くことがないんですけど、やっぱり老人と、私も老人ですけど、老人と小さい子供って本当に毎日のように病院に通うんですよね。上の子は確かに小さい頃にどんだけ使ったのか分からないんですけど、今は何か非常に正直にありがたいと思っています。子育て支援ってやっていく上で医療費って大きなウエートを占めていると思いますから、これもぜひ継続していってもらいたいと思っています。

それから、教育についてですが、これも何か3年ほど前でしたか、教育委員会との連合町内会では懇談会というのをやったんですけど、当時43位というような劇的な、教育県岡山と言いながら、下から数えたほうが早いんですかね、43というのはね。もうほぼ最下位に近いようなところで、それが今劇的に復活をしてきて、十何位になったんですかね。33位でしたか、何か随分上位のほうへ上がってきたと思うんです。これは先生方がそういうやり方、方法を変えてきて、今度は来年は絶対にこれは上位に行きますからといって、当時も教育委員会におられた先生が一生懸命力説されていました。さあ、どうなるんだろうかなと思いながら、でも確かに劇的に上がってきたと。これはすごい評価されるべきことだと思います。

それから、先ほどから出てます岡山城の西の丸の整備について、これも昨日も何か大きな新聞に出てましたけど、市民会館の跡地につきましては、できたらあそこ、地元の連長も言っているんですけど、芝生を植えるのではなくグラフィックスか何かにして、できたら観光バスを優先的に入れられるような駐車場スペースなんていうのが、これも欲しいんですよ、実は。だから、多目的広場にしさえすれば、そういったバスも行くんじゃないかと、入れるんじゃないかと。芝生を植えてしまうとバスが入れないでしょう。だから、そんなことを考えたら、やっぱりそういった施設も必要になる。絶対、ほら、桜が咲いている頃というのはもう大渋滞ですよ、あその後楽園のほうへ入ろうと思うと、バスが。結局、岡山城へ入るのもそうですけど、バスの止め場がないから、もうみんな困ってるんですよ、バスの運転手も石山公園の周辺でうろうろして。だから、岡山は通過点になって

しまうという、そういった情けないことになってしまいますから、これはぜひ一遍考えてみてください。

それから、3番目、アリーナのことになるんですけど、アリーナのこれも連合町内会の中でもいつも話が出てくるんですが、やっぱり駅から岡山市がせっかく造った北長瀬駅、ここから歩いて遠いんです、今度造る予定のところが。私も子供を連れて歩いて、電車乗って歩いてみたんですけど、やはり相当遠いですね、造る予定地が。だから、車で行くのと、車で行って、行ったことがあるよというのと、それから実際に電車から降りて歩いてどのぐらいかかるかというのを行って実測してみると、ちょっと遠いような気がします。だから、やっぱり岡山というのは駐車場が要るんじゃないかなと思うんです。

それから最後に、ハレノワのことについてですが、せっかくあんない施設があって、私、前回物すごくべた褒めしたんですけど、音響がすごくすばらしいですよ、ここ、音楽を聴きに行っても。ただ、1,700しか入らないんで、先ほど言われたように、何か岡山には絶対このハレノワには来ないと、倉敷へ行くんだと。いや、これはそのことの一つ理由にあるのは、観光バスを止めて、あそこへ置こうとしたら、もう警察が物すごくやかましいんですよ。駐車場にもタクシーの寄せ場もない。この間もあそこの清輝橋の地元の連長が市長のところへ何か陳情に行ってたと思うんですけど、あそこに反対側の旧市民病院のところへ大学の施設を造ったらいんじゃないかということで話に出ましたが、もうあそこはどっちかという駐車場にしたほうがいいんじゃないかなと私はこれ、個人で思うんですけど。

むしろ駐車場がないから、岡山の人って何だかんだ言いながら、岡山の人ばかりじゃないんでしょうけど、来られる人がね。4割が県外の人が多いという話もさっき聞きましたけど、やっぱりこれ、車社会なんですよ、残念なことに。何か昨日なんかでも、いっぱいでしょう、イオンの周りって、車がね、駐車場へ行くために。もうひどいときは跨線橋のもっと向こうの新鶴見橋のほうからずっと並んでいるんですね、あっちのほうまで。だから、そんないろんなところから車が来ていっぱいなんで、できたらそういった駐車場のことも考えて。

私なんかは歩いていくとか自転車で行くとか、そういうふうに町なかにはいますから、もう全くそういうような車で行くなんてことは考えられないんですけど、わざわざ車で来られる人って気の毒だなと思いながら、いつも見えています。

以上です。

○阿部会長　ありがとうございます。

それでは続きまして、岡山委員さん、お願いいたします。

○岡山委員　基本的に岡山市の施策、大森市長になってからずっとコンパクト&ネットワークということで、都市構造というものを構成するようにしてきたと思います。ずっとそうしてきました。それをやっぱり今までやってきたことをさらに進化させていくことが大切だと思っております。それはネットワークのほう、公共交通のほうということで、もうちょっと進化させていかなければいけないと思っています。

バスのことをやられてきましたが、バス路線の統廃合といいますか、再編といいますか、その話は随分苦勞されて、あれほど仲が悪いというか、市に反発もしていた人たちも一緒になってやれたというのは、本当に画期的なことだと思います。ただ、まだ何か支線とか、その辺の整理の話なので、これを第一歩として、ここからもうちょっと広げて、結局一番人の人数が多いのはＪＲであります。８方向に延びているＪＲを生かしていくということと、やっぱり一緒に将来的にやっていかないといけないというふうに思っております。

それが、一番の目標として、公共交通の分担率を上げることを目標に掲げて、全面的に掲げてやっていただきたいなというのがあります。そのためにＪＲとの連携みたいなものですが、ＪＲとの連携でいうと目標は２つで、運行頻度を上げる。今どんどんどんどんＪＲ減らしてますけど、減便してますけど、それをちゃんと元に戻したり上げたりすることが一つですが、これはすぐ市の外に出るので、ＪＲに乗っていると、これは県がやったほうがいいのか、ほかの市との連携も要るので県のほうが主体のほうがいいのかなとも思いますが、あと岡山市としては、新駅を造るところは地元の自治体の仕事かなというふうに思います。

２キロぐらいごとには岡山市内も駅があるぐらいのイメージで、新駅、高島と北長瀬、城東を造りましたが、西河原ができて以降できてないかと思いますが、新駅を造っていくということも視野に入れていただきたいなと思います。それで、どこに造るかという、まず一番候補に挙がるのが岡山・法界院間の津山線が取りあえずファジアーノもＪ１に昇格して、取りあえず観客が大分行くと思いますが、渋滞必至でありますし、あそこら辺、高校もいっぱいあるし、簡素な駅でも、簡素なホームでもいいのか、駅前広場がなくても

いいのじゃないかと思いますが、そういうところとかが取りあえずターゲットかなというふうに思います。

先ほど、すみません、小野さんが駐車場とか車社会だからと。確かに車社会でありまして、それを变えるのがやっぱり市の目標であっていただきたいなということで、公共交通の分担率を上げる方向ですね、車に依存するのをやめる社会。熊本で公共交通を2倍にして渋滞は半減になるんだと、車を1割削減するだけで渋滞は半減するんだということを言い出して、県と市長が一緒になってそういうことを言われておりまして、熊本が地方の政令市の中で一番渋滞が激しくて、2番目が岡山市でありますので、そっちの方向性、公共交通によって渋滞を解消するということなら、場合によっては道路予算のほうから渋滞対策ということで公共交通のほうに予算を回すというようなこともあり得たらいいなというふうに思っております。

それから、地域の中心市街地の活性化のほう、その核になるところの活性化のほうとして、今まで西川緑道公園の「ホコテン！」とかハレまち通りとか、いろいろやられておりますが、それもさらに進化させるためには、西川緑道公園の「ホコテン！」、昨日もやりましたけど、常時、今、開催するのに非常に手間がかかっております。看板をいっぱい設置して予告もしなきゃいけないし、警備員も配備しなきゃいけないので、それはできたら毎週日曜日の何時から何時までは通行止めにするという標識1個で済むようなことに何とか持っていくというところへやっていただきたいなと。よその都市でも、もう看板一つでできるところ、那覇の国際通りであるとか東京の神楽坂の通りであるとか、非常に簡単にできているところのようなところを目指して行ってほしいなと。

それから、西川の「ホコテン！」なんかは夏は非常に暑いので、夜させていただきたいなということをやっている方は言われておりました。

それから、千足古墳とか吉備路のほうの観光絡みになりますが、公共交通の足がないというのは、これはなかなか非常に厳しい問題なので、一番の手っ取り早い解決策はJ R吉備線、桃太郎線のサイクルトレインを実現するのが非常に簡単、簡単ではないですけど、相手がJ Rなので、割といい方法ではないかと思います。以前、大分20年ぐらい前に実験したことがあるかと思いますが、実際にやったことが、社会実験やったことがあると思いますが、サイクルトレインあるいはレンタサイクルの充実というようなことも考えられるかもしれません。

それから、L R Tのことは止まっておりますが、将来的なことを言えば、南方面あるい

は南西部方面への延伸というようなことは一応課題としてあると思っていただけたらと思います。

あと、今、市街地の先ほどのデータであります、地価が上昇しております。これはいいことのような感じがしますが、この上昇がなぜ上昇しているかというのをどうのご見解なのかお伺いできればと思います。

あと、マンションが非常に建っております。マンションが建つ、需要があるから上がっているのではないかという面もあるかなと思いますが、あとマンションがこれだけ建ち過ぎるのは、ちょっと懸念されると思います。特にタワマンですね。タワマンは、あまり将来的に非常に運営が難しくなる、何十年かたったときに。マンションがちょっと建ち過ぎではないかと。マンションが建つことに対してのご見解もお伺いできたらと思います。

あとそれから、吉備高原というものをもうちょっと生かしたほうがいいのではないかと考えております。吉備高原というのは、岡山市の北部から津山の手前ぐらいまでがずっと吉備高原でありまして、とても地盤が固いということが分かってきて、3,400万年とか1億1,000万年動いてないみたいな話がだんだん分かってきて、県が造った吉備高原都市の中の住宅団地がずっと売れ残っていたのが急に今年になってばか売れして、非常に注目を浴びているというようなこともあります、南部のほうは岡山市にも大分かかっていますので、リサーチパークのほうと空港のほうとかもありますので、先ほどの産業団地の拡張ができるようになったようなところが、そういうふうに生かしていけるのか、いけないのかなというふうな感じがあります。企業を誘致するなり、いろんな岡山の魅力といいますか、利点だなというふうに思っていますので、生かしていただきたいなというふうに思います。

あと、一応人口流出の問題とかは、また3月にやるんですかね。じゃあまた。この前、ワークショップに、若者のワークショップにのぞかせていただいて、そこでつながりみたいなものを若者が求めているというような非常に印象的な課題が浮かび上がったなと思っております。それもまた3月のほうなんですかね。

あと、視点として、地域経済循環といいますか。地域内での経済循環という視点を常に持って、打ち出していただけたらと思います。外へ外部へお金が流出するようじゃなくて、地域の中で回すような話をもうちょっと強めていっていただきたいなと思います。幾ら商店とかができても、外資が来たりして商業が活性化して、それが何の役に立つのかなという気がします。東京の資本が来ても、それよりは地元の資本を生かしたほうが地元

お金が回っていくので、その視点は公共調達にしても、そういうこともあってもいいのかなというふうに思います。

今懸念されているのは、デジタルの分野って、結局デジタル、DXを進めると東京の大手企業なりが来て、地方のものを吸い上げていくのではないかという懸念があります。そういう意味で、スタートアップを市の事業と組み合わせてやってる、さっき出てきた事業というのは、非常にスタートアップというものの育成と地元を結びつけるのに、そういうのも一つの手なのかなというふうに思っています。お聞きしたいのは、デジタル赤字が本来に日本も進んで、どんどん赤字が増えておりますが、この地方からしてデジタル赤字を何とかする方策はないのか、その辺のことをお伺いできたらと思います。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、杉山先生、副会長ですね、はい、お願いします。

○杉山副会長 私たまたま第6次のほうにも関わらせていただきました。大森市長の強い思いがあって、第5次計画のコンセプトが静的なガーデンシティだったものをもっと動的に躍動させるような、そういう計画をつくりたいということをおっしゃられて、見事にそれが10年で結実して、この指標（KPI）にあるような成果に結びついたんじゃないかなというふうに思います。マクロ経済的に少し俯瞰してみると、この第6次までは実は人口がそれほど減らなかった。少しずつ増えていって、落ちるちょっと手前までで第6次計画が終了します。私たちに委託されて次の計画（第7次）をつくるとすると、これから人口減に向かっていく中で果たして何をやるべきなのかということについては、よく考えていけないといけないんじゃないかなというふうに強く思います。今期の総合計画の成果は花丸で評価すると、三重丸、四重丸、五重丸の成果を上げられて、すばらしいというふうに思っております。

ほかの委員の方からも発言があったんですけども、コンパクトシティ化の中でタワマンが随分増えてしまって、むしろデータセンターとか、もう少し雇用を生み出すような、そういうビルの建設とか、あるいはそういう類の会社の岡山への進出の促進があれば、よかったなというふうに思います。もちろん、岡山市は国家資本主義で運営はされてはいないので、市長がこう言ったから、そうなるわけではないんですけども、そういう方向で努

力を少し続けていっていただけたらなというふうに思います。

あと、私のほうからもう少しお願いというのをしておきたいなというふうに思います。路面電車の環状化ってコストもかなりかかるんですけども、やはりここまで来たので、ハレノワのところをぐるっと環状にして、つないでいくようなことは、限られた資源の中ですけれども、ぜひ投資を継続して進めていっていただけたらいいなというふうに思っております。

それから、古墳の整備は千足古墳のような非常に見事な例があるので、これからも岡山の古墳を再整備していただけたらというふうに思っています。尾上車山古墳という吉備の中山の東南の一番端っこにあるんですけど、あれがもし岡山市の管理下にある古墳であれば、ぜひ再整備を検討していただけると、とても面白いなというふうに思っています。多分スピードがまた速いので見えないかも分かんないですけど、新幹線から見えるのではないかと思います。とても意義がある古墳ではないかというふうに思っております。

それから、大森市長さんの最大の貢献である待機児童をゼロにするというのは、見事にこの10年間で対応ができたんですけど、目下の最大の課題というのは不登校の学生たちをどうするかということです。フリースクールというのができていて、東京都の首長さんはフリースクールに児童一人月2万円ぐらい出してもいいという政策を進められています。不登校問題はやはり放っておくわけにはいかないだろうというふうに思いますので、フリースクールのような特殊学校のサポートをお願いできたらというふうに思ってます。

それから、ほかの提案市、例えば韓国とか台湾とか交流を進められているんですけど、もともとのシスターシティーでスタートしたサンノゼとの交流というのがずっと中断されています。たまたま私は岡山ロータリーのメンバーなんですけど、岡山ロータリーも随分心を痛めていて、何としてもサンノゼロータリーと関係を復活したいということで、ずっとアプローチをしてたんですけど、岡山ロータリーの90周年記念事業で幸いに向こうの方も来てくださるような形になりまして、少し今戸口が開いたかなというふうに思っています。

やはり世界の中でのサンノゼのポジションというのはすごいので、あまり振り向いてくれないので、放っておくということではなくって、サンノゼとの交流というのも若い世代、学生たちを含めて、とてもメリットがあると思います。

それから、既にほかの委員さんからもご指摘があったんですけど、岡山って、もともと農業県だということがあります。岡山市内に公立の農業高校が3つあるんですよね。高松

農高、興陽高校それから瀬戸南高で、こんなに農業高校が3つもあるような市というのは日本でも珍しいと思います。これら3つの高校は長い伝統があるので、スマート農法とか新しいことをいっぱいやってまして、全国大会でかなり表彰されているんですよね。ぜひこれをうまく岡山市に取り上げていただいて市民に知らせるべきだと思います。「ももスタ」で新しいスタートアップの方たちが相互に研鑽する場があり、スタートアップが日の目を見るような形になってきていますが、農業をすごく頑張っている若者もいますので、この学生たちが取り組んでいることをぜひ取り上げていただいて、何か市民の方たちにお披露目するような、そういう施策をぜひ考えていただけたらというふうに思ってます。

それから最後に、もう既に前回の総合計画でも資料をいただいて検討されているというふうに思いますけれども、冒頭申し上げたように、これから人口減に向かっていく中で、どういう政策を選んで、どういうところに資源を配分するのかというのが、すごく大切になってくると思います。したがって、古い社会インフラ、既に上水道については半田山植物園のところに上げてる上水道を全部入れ替えるというふうな形で、半田山植物園が少し閉鎖されるというふうに理解してるんですけど、社会インフラとか岡山市が管理されている建物とかの改廃計画というか、どういうふうに進めていくのかということについては、今日でなくて結構なので、議論の中で資料を作っていただいて、ご提案をいただけたらいいなというふうに思ってます。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、事務局のほうからお願いできますか。

○中原副市長 副市長の中原でございます。

私のほうから2つほどお話をさせていただければと思いますけれども、まず齋藤委員のほうから市立病院との関係について距離感の問題をお話しされておりましたけれども、地方独立行政法人という形にしております。独立という名前で非常に市と疎遠なのかという印象をお持ちかと思いますが、そういうことではなくて、毎年毎年の予算で一挙手一投足縛っていくというよりは、より経営感覚を持って、中期、5年ぐらいのスパンで補正を考えていただくという意味で別法人化しているものでございまして、委員のほうからご指摘のあったような地域の医師、医療体制をどうするかというところについては、そういった

大きな目標については病院側ともよく共有していきたいと思っております。

他方で、例えば地域枠の医師の確保とか全て病院のほうでできるものばかりでもないです。国、県を含めた行政側でやるべきことは、しっかり行政側で何が必要かというのを今後ご意見いただきながら考えていきたいというふうに思っております。

それから、今、副会長のほうからお話のありましたインフラでございますけれども、また詳細は担当のほうから後日ご説明させていただきたいと思いますが、今、市のほうでは全国的に昭和の時代に造ったインフラが一度に老朽化してきてまいりますので、その中で優先順位をつけながら縮小していくものは縮小していく、新しく建てるものは新しく建てる、またできるだけ今のものを改修して使えるのであれば、それで長寿命化してやっていくということによって、財政的な負担を含めて、あと技術者の数も限られておりますので、そういったものを平準化していつて取り組んでおります。それは岡山市の公共施設等総合管理計画という形でまとめてございます。

ただ、非常にロングスパンでの計画になりますので、詳細なところでのどれぐらいの予算が必要とか、そこまで積み上げられてるものではございませんけれども、また今回の能登半島であったような、その後、計画つくった後にいろいろ出てくる新しい事態への対応みたいなものもありますので、そういったものも日々アップデートしながら、一度にインフラが悪くなるというようなことにならないように取り組んでおるところでございますので、また改めてご説明させていただきたいと思います。

○後河保健福祉局長 失礼します。保健福祉局長です。よろしくお願いします。

私からは、齋藤委員のほうからございました2点、まず総合特区の件でございますけれども、岡山市で全国唯一の在宅介護総合特区ということで、現在通算で12年目ということで第3期にかかってございます。その間、本市限定の規制緩和、これは介護機器の貸与モデル事業というものでございますけれども、これもそうですし、あと全国的な制度の創設とか運用改正、報酬の創設でありますとか数値改正等、4つの案件について実現を図ってきたというところでございまして、本年度も国の調査研究事業に参加をしているところでございます。在宅医療、介護のニーズに備えまして、引き続き取組を進めていきたいというふうに考えております。

それから2点目が、認知症に関しましてのご質問でございました。アウトカムということでございます。確かに今回列举させていただいている部分というのは、支える側の視点

ということでアウトプットというところになろうかと思うんですけれども、今、岡山市でもピアサポートでありますとか働くということで、認知症になっても社会参加を継続してやっていただけるような、そういった取組にも力を入れているところでございますので、そのあたりをなかなか数値化というのは困難かもしれませんが、切り口として次の計画にどういうふうに書き込めるかということを検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○北川政策局長 では、私のほうからお答えをさせていただきます。

まず、嶋田委員、小野委員からのアリーナへのご期待とご要望もいただいたというふう
に受け止めております。例えば、駐車場をどうするのかですとか、あとどのようなアクセスをもたらすのかという、その具体については今考えておりますので、そちらを進めつつ、また北長瀬という場所について、もっと拠点性を高めるというご指摘もいただきました。おっしゃったように北長瀬については間屋町も近くにありますので、そういう周辺の観光客、また市民も立ち寄れるようなところとも連携を深めながら、今後アリーナの整備に向けて引き続き取り組んでいくというふうに考えております。

また、小野委員から西の丸の観光バスの駐車場の件をいただいております。現在計画の中におきましては、平準化した上で観光バスの駐車場について、現在これまでも駐車場として活用していた、昔NHKがあった場所を駐車場とすることによって方向性を出しておるところでございます。確かに本当に混む時期というのは、あふれる可能性もありますけれども、年間を通して見たときに十分な台数を確保できるように進めていきたいというふうに思います。

また、岡山委員からもご指摘がありました、特に町なかにどんな機能をもたらすのかということで、ハレノワは車を止めるところがちょっと足りてないんじゃないかというご指摘もありましたし、タワマンがどうかというところもありました。そこは本当にいろんなバランスを見ながらというふうに考えておりますので、また総合計画の議論とまた別に町なかの在り方ということで今後検討していきたいというふうに思います。

地価の上昇について、なぜかという難しいご質問をいただいているんですけれども、いろんな分析の中で、例えばマンション投資が盛ん、また再開発が進んでいるということも理由じゃないかというふうに言われておるところでございますので、そうしたことをこれ

から市内総資産が何で増えているのかということも分析をしながら進めていきたいというふうに思います。

また、デジタル赤字のことにつきましても、これも難しいご指摘だなと思います。現状を見ておられますと必ずしも東京の事業者さんだけということもなく、例えば市の窓口をスマート化していくという取組においては、むしろ地方の事業者さんのほうが進んだ取組を持っておられたりするので、そういう形でどんな事業者さんが一番いいことをやっておられるのかという目で見ながら、市役所そのものもそうですし、市内の製造業の方等のデジタル化にも取り組んでいきたいというふうに考えております。

杉山先生から古墳ですとか農業というご指摘もいただきましたので、そちらも個別の政策として、これから取り組んでいきたいというふうに考えます。

また、皆さんからいただいた、いろんなご意見につきましては、これからの検討の中で生かさせていただきます。

以上です。

○阿部会長 いろいろとご意見、ご質問をいただきまして、ありがとうございます。大変有意義な会議になったと思います。

私から1つお願いしたいのは、いろいろ議論するのは、これはすばらしいことなんですけども、やはり市政でまちづくりのタイミングを生かしながら、いろんなことを実現していく、それで岡山市の存在感を高めていくということが一つ大事ではないかなというふうに思います。それからもう一つ、ぜひ大森市長さんをお願いしたいのは、広域的な連携機能、周りと協力しながら地域全体で日本の中での存在感を高めていくという、そういうことを考えていただきたいなというふうに思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○大森市長 いろいろと全体としては評価をいただきまして、本当にありがとうございます。最後、阿部会長から存在感を高めるようにということで、中四国の中での存在感というのは大分高まってはきているんじゃないかと思いますが、もっともっと様々な面から対応をしていかなきゃと思っております。

じゃあ、全体を聞かせていただいた少し感想を述べさせていただきたいと思いますが、それぞれの皆さん方、力点が違ってくる。それはもうある程度やむを得ないところがあるんですけども、一つの事象で全く見解が変わるというのも、このメンバーでさえあ

りました。それをどうこうという話じゃもちろんないんですけども、私ちょっと場違いかもしれませんが、昔、孔子がこう言ったことがあるんです。10人が10人賛成することをやるのは当たり前だと。10人が10人反対することをやるのは、ばかだと。5人賛成し、5人反対する、これをやっていくのが政治だと。

今の世の中、多分5対5じゃできないんで、6対4、7対3というような中で一つ一つやっていかなきゃいけないというように思っております。そういう面では議論を積み重ねながら方向を見つけていくということが必要だろうというように思います。その中で、杉山さんがおっしゃったマクロの数字というのは我々きちっと理解しておかなければならない。国調で令和2年の国調、岡山市が72万5,000人、多分それがピークであるわけであり。今年の二十歳の集い、20歳になった、二十歳になった人が7,000人強であります。2023年、昨年1年間の出生者数が4,800人、これだけ減っているわけであります。

もちろんその対策を講じるというのはもちろんですが、この4,800人は社会増減は別にすれば全く変わるわけがない。その人たちが適齢期になったときに、どれだけのお子さんを産んでいただくかというのはあるかもしれないけど、少なくとも7,000人が4,000人台になってきている。そういう状況をきちっと理解した上でやっていかなければならないのかなというように思っているところであります。最低限やっていかなきゃならないインフラもあるでしょうし、子供たちに夢を与えなければならない施設もあると思います。そういったものを次の計画でどこまで整理するかということになると思いますが、また皆さん方のお話をお伺いをさせていただきながらやりたいと思います。

最後1点だけ、先ほどのコメントを訂正させていただきますが、タワマンは調整できません。そこはバランスを取ってやるというのは無理でありまして、よく欲望の経済学という言葉があると思うんですが、それができりゃあバブルは絶対に起きないわけです。バブルが起きるというのは、これをやったらもうかる、これをやったらもうかると言いながら、どっかで破裂をする。これが欲望の経済学の基本なんですけれども、私、今、大手のマンションの会社の人たちにどこが限界だと思ってるというように聞いても誰も答えられない。山陽新聞も答えられないですね。

○岡山委員 もうやばいなど、感覚で。

○大森市長 ただ、本当に再開発のお金を出すに当たって、どういう基準を設けるのかか

というのはあるかもしれませんが、ただそれがなかなか整理ができない。もちろん神戸みたいに、もうタワマンを規制しちゃうというやり方はないわけではないんです。ただ、また今売り出しているタワマンが一次の募集でもう即完売というのも聞いたりしますんで、果たしてそれが岡山にとっていいのかどうか。そういう首都圏、近畿圏と同じような規制をやるべきなのかどうか。これも相当の議論があつて、今のままではできないということであります。

これからの状況を見ながら、そういう規制が本当に必要なのかどうか、また議論はさせていただきたいと思いますが、悩ましい問題が多いところでありまして、ぜひ皆さん方のお知恵を拝借しながら次の総合計画をやっていきたいと思います。

○阿部会長 それでは最後に、事務局のほうから何か連絡等ございますでしょうか。

6 閉会

○司会 ありがとうございます。事務局でございます。

令和6年度第2回の岡山市基本政策審議会を令和7年3月17日月曜日の午後に開催を予定しております。よろしくお願いいたします。

以上です。

○阿部会長 それでは、これで本日予定していた案件全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返しします。

7 閉会

○司会 それでは、これをもちまして令和6年度第1回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様ありがとうございました。